

地域医療連携だより

11号

平成26年12月19日発行
発行/小林市立病院 地域医療連携室

～副院長 あいさつ～



2014年もあとわずかで終わりとなりました。

皆様方には当院運営においてご協力とご尽力を賜り誠にありがとうございました。2015年もよろしくお願い申し上げます。

今回は、当院の診療部の現状を報告します。常勤医は11名（内科医1名、外科医4名、整形外科医2名、泌尿器科医2名、麻酔科医1名、救急科医1名）で、循環器内科、心臓血管外科、小児科は非常勤医にて対応しています。常勤内科医不足が解消されない状況は続いており、近隣の先生方にはご迷惑をおかけしております。

現在は外科系中心の入院治療、二次救急医療が主となっており、2014年1月から11月の手術件数（全麻、腰硬麻、局麻）は消化器外科・腫瘍外科：202件、整形外科：154件、泌尿器科：159件で、2013年1年間の消化器外科・腫瘍外科：219件、整形外科：185件、泌尿器科：245件と比較してもほぼ相違ない状況です。これは近隣の先生方の貴重な症例のご紹介のおかげであると感謝いたします。また、救急患者の受け入れですが、2014年（1月から11月）が648件でした（2013年は1年間で763件）。高次病院へのドクターヘリ搬送は、2014年（1月から11月）が18件（2013年1年間で16件）と、宮崎大学救急科および宮崎市内の高次病院のご協力が得られている事にあらためて感謝いたします。

近隣の先生方には、当院からのかかりつけ医としての外来診療の依頼および急性期治療後の患者様の入院治療の受け入れにおいてご配慮いただき、地域医療連携の面においても先生方のご協力が得られ非常に助かっており感謝いたします。

当院は、医療連携をさらに充実し皆様方の期待に応えられる医療を提供できるように努力する所存ですので今後ともご協力並びにご指導をよろしくお願い申し上げます。

小林市立病院 副院長 徳田 浩喜

～ご紹介～

平成26年10月から小林華道連盟の新池坊、龍生派、草月流の師範8名の方のご厚意で受付窓口ロビーに生け花の提供をいただき、患者様、職員の癒やしになっています。



診療部紹介

今回は、

救急科

です。

救急科医師 川井田 望



当科はH25年に新たに救急専門医1名を専従し、主に西諸管内の救急医療に携わっています。主に脳卒中以外の疾患を対象としております。（脳血管疾患につきましては、近隣病院が受け入れ困難だった際は当院で対応し、適切な医療機関へ転院となります。）

H25年度の救急搬送件数は紹介を含め754件で、内訳は初期二次が576件、重傷三次が121件、CPAが27件、分類不明が30件でした。当院で対応困難な重症患者は、当院で初期治療、診断後、主に宮崎大学救命センターを含め高次医療機関へ転院搬送となります。その後、様態が落ち着いたところで当院へ再転院となるケースもあります。

当院を含め西諸管内は常に医師不足が問題であり、必ずしも満足できる医療を提供できていない状況ですが、外科、整形外科、泌尿器科、麻酔科、内科等、各科医師の協力の元、西諸管内で完結できる疾患は完結するよう努めて参りたいと思います。

地域医療連携室よりお知らせ



お知らせ!

**当診療科での待ち時間短縮を目的として
平成26年4月1日より
紹介患者様の事前予約が必要になりました!!**

予約方法

- ①別添の「診療予約申込書」にご記入のうえ、FAXでお送りください。
- ②担当科と協議の上、診療日時を決定し、「診療予約通知書」をFAXさせていただきます。

FAX番号：0984-23-8226

受付時間：9時～16時

※上記時間以外のFAXは翌朝、休日をはさむ場合は休日明けの対応となりますのでご了承ください

連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225 (直通)

FAX 0984-23-8226

看護部紹介

今回は、**外** **来** です。

当院の外来診療科は、一般外来（内科・循環器内科、消化器外科・腫瘍外科、救急科、泌尿器科・透析、整形外科）5科に加え、呼吸器外科、心臓血管外科（1回／月）、小児科（毎週金曜日）、循環器内科（毎週火曜日・2回／月）の4科において、非常勤医師による診療が行われています。



診療科毎に看護の専門性が求められる中、看護師16名、看護助手1名の総勢17名が看護力を発揮するため、OJTを定期的実施し、チーム医療に貢献できるよう日々自己研鑽を行っています。

外来の有資格者として、感染管理認定看護師1名、九州ストーマリハビリテーション講習会修了者を中心に、外来患者さんやご家族への支援を行っています。

また、当院は、二次救急医療機関で年間約750台の救急搬送受け入れを行っており、西諸・小林地域の救急医療の重要な役割を担っています。患者さんの救命に全力を尽くすため、看護スタッフの基本的知識と技術の向上は勿論のこと、救急医をはじめ多職種と連携を図りながら、質の高い看護を提供できるように努めております。また、救急教育の取り組みとして、看護実践能力を向上させるために勉強会を開催するなど、外来看護に必要な資格の取得のため、研修に参加し、自己研鑽に努めています。その他、消防と合同の症例検討会を行っています。



外来化学療法室は4床あり、外科系（消化器癌・肺癌・乳癌）、泌尿器科系の前立腺癌など、年間約600件の外来化学療法を行っています。患者さんと看護師間で治療日記を導入し、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）を保ち治療を継続していけるようサポート体制を行っています。これからも患者さんへ安心安全な医療を提供していけるよう、より一層外来看護体制の充実をめざして外来看護師一同、頑張っていきたいと考えています。



コメディカル紹介

今回は、**リハビリテーション室**です。

当院リハビリテーション室は、理学療法士7名、作業療法士5名、言語聴覚士2名、アシスタント1名の合計15名（平成26年11月現在）が所属しています。平均年齢は33歳で、男女比5：5と比較的バランスの取れた構成となっています。壮年の安定した知識と経験、青年のエネルギッシュなパワーとやる気が見事に調和され（上は50代から下は20代前半）、リハビリテーション室の雰囲気盛り上げています。患者さんやスタッフ同士が様々な話題で盛り上がり、リハビリテーション室は笑顔が絶えません。平成25年度より、リハビリテーションサービスの拡充と回復期リハビリテーション病棟の開設に伴い、セラピストの増員を行いました。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、それぞれの特徴を活かすことで、患者さんへより良いリハビリテーションサービスを提供することができます。また、一人の患者さんへのリハビリテーション提供時間を増やすことで、患者さんの回復率向上や在院日数の減少にも繋がります。技術力向上では、院内外の研修会や講習会へ参加しています。学会などへも積極的にエントリーし、技術研鑽に努めています。また、管内で行われるイベント（秋祭り、コンサート、地域医療等）にも積極的に参加し、地域とのふれあいも行っています。今後も患者さん、地域のために、チーム一丸となってより良いリハビリテーションを提供していきます。

今年度の取り組み

- | | |
|-----------------|----------------------------------|
| ①院内研修会 | 講師（理学療法士、言語聴覚士） |
| ②管内症例検討会 | 症例発表（理学療法士） |
| ③緩和ケア研究会（都城市） | 研究発表（理学療法士） |
| ④理学療法士研修会（小林市） | 症例発表（理学療法士） |
| ⑤宮崎県国保医療学会（宮崎市） | 演題発表（理学療法士、言語聴覚士） |
| ⑥全国自治体病院学会（宮崎市） | ポスター発表（理学療法士）
座長（理学療法士、作業療法士） |
| ⑦宮崎県理学療法学会（日南市） | ポスター発表（理学療法士） |
| ⑧地域医療イベントボランティア | |
| ⑨小林秋祭りボランティア | |
| ⑩院内コンサートボランティア | |



症例検討会報告

平成26年11月28日（金）に「第16回症例検討会」を当院2階大会議室にて開催しました。今回は、院外から6人の方に参加をして頂きました。また、大勢の方々にもお越し頂き、大変充実した会となりました。ありがとうございました。

次回は、平成27年3月を予定しておりますので、多数の参加をお待ちしております。

第16回症例検討会

日時/参加人数 平成26年11月28日（金） 18時30分～ 116名

座長 小林市立病院 地域医療連携室長 島名 昭彦 先生

演題（発表者） 『外来化学療法 治療日記の見直し～介護介入の継続とチーム医療を目指して～』

（孝橋 留美）

『在宅現場で薬剤師に出来る事』

保険調剤薬局 つつみ （甲斐 洋道）

『高次脳機能障害の心理的ストレスに対し「日記」を導入した1例』

医療法人三和会 池田病院 リハビリテーション科 （橋口 智英）

『当院における経口腸管洗浄剤「モビプレップ」の使用経験』

医療法人健風会 槇内視鏡内科病院 （黒木 有美）

『エルゴトレーニングにより歩行能力向上した低体力高齢者の一例』

医療法人 友愛会 野尻中央病院 （浜田 裕介）

『薬剤師による居宅療養管理指導の報告例～剤型変更の試行例～』

二葉薬局 京町 （久保田 裕貴）

『薬剤師による居宅療養管理指導の報告例』

～コンプライアンス向上のため、医師に提案し、処方変更となった例～

二葉薬局 野尻 （平田 淳也）

『重症肺炎より感染性ショックを呈した一例の経験』

（川井田 望）

『PSA高値を認めたら』

（森 勝久）



新規採用医師紹介

日高 亮



プロフィール

○診療科 整形外科

○趣味・特技 読書・料理

このたび、小林市立病院整形外科に赴任して参りました、日高亮と言います。前赴任先は、鹿児島の川辺という町で、仏壇生産によって賑わった町でした。今回、小林に異動するに当たり、小林の名産品を調べるとチーズ饅頭の発祥地ということでお腹をすかして参りました。最初にチーズ饅頭をさしだしてくれたお母さん、お母さんが出してくださったお茶！！あっという間に小林が大好きになりました。

きっとまだまだある魅力ある町小林！仕事にプライベートにがんばっていきます。よろしくおねがいします。

研修医紹介

福久 はるひ



プロフィール

○診療科 消化器外科・腫瘍外科

○趣味・特技 読書・シャドーボクシング・茶道

平成26年10月から12月の3か月間、小林市立病院の消化器外科・腫瘍外科で勤務させていただきました、福久はるひと申します。

鹿児島県以外の県に住むのは初めてで、少し不安もありましたが、到着し働き始めてからは、先生方、看護師さん、職員のみなさんがお優しく親切だったので、不安はあっさりなくなり、毎日楽しく働かせていただきました。

開腹手術やヘルニア修復術、胆嚢摘出術など多くの手術を経験することができ、終末期の方の輸液管理などを学び、上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡を多くさせていただき、外科医になってからまだ経験したことのなかった、いつかやりたかったことの多くをご指導いただき、大変充実した日々を過ごすことができました。週末には観光もさせていただきました。度重なった台風でコスモスを見逃したことは残念でしたが、遊びに来た両親を三之宮峡へ連れていくことができました。迫力のある峡谷にたいへん感動しました。焼肉のおいしさにも感動しました。

小林市立病院で働くことができたこと、小林市という素敵な土地を知ることができたことが、今後の人生の大きな財産になると感じています。

あっという間の3か月間でした。たくさんの方に様々な面でお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。いつかまたご縁がありましたら、もっと成長した姿でお目にかかれるよう、これからも精進したいと思います。

本当にありがとうございました。



編集後記

師走に入った途端、霧島連山はすっかり雪化粧に変わりました。

霧島おろしを肌を感じながら、通勤している毎日です。インフルエンザも徐々に増えつつありますので体調管理には十分気をつけたいですね。今回は、二次救急医療機関としての患者さん受け入れ状況と診療科および看護部、リハビリテーション室を始め他職種間との連携による、患者さんへの医療サービス提供の状況について報告させて頂きました。

今後も、皆様にわかりやすい情報を発信して参りたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

地域連携室師長 若松恵子